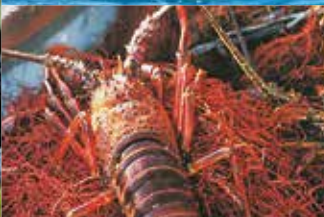


水の話

FujiClean NEWS

2023
Anniversary

NO.200



【特集】

美しい水環境への想いを
未来につなぐ

『水の話』が200回を迎えました。



フジクリーン工業株式会社

美しい水環境への想いを 未来につなぐ

『水の話』が200回を迎えました。

『水の話』が、その歴史をスタートさせたのは1974(昭和49)年5月。およそ半世紀前に『フジクリーンニュース』のタイトルで創刊し、以後、一人でも多くの人に、水の大切さや水環境に関心を抱いてもらうためのさまざまな情報を発信してきました。1974年は、フジクリーンが現在の社名に改称し、新たなスタートを切った年でもあり、時代は高度経済成長の真っただ中。水洗トイレの普及が急激に進み、整備の追いつかない下水道に代わる単独浄化槽の需要が増えていく中で、浄化槽とはどのようなものであるかの認知を図ることが『フジクリーンニュース』の最大の目的でした。そのため創刊当時の内容は、浄化槽の性能や販売、汚水処理についての情報などを中心に構成されていました。

その後、PR誌としての内容も充実させながら、タイトルを『フジクリーン』『FC NEWS』に変更、デザインも刷新していきます。1992(平成4)年には現在の『水の話』がタイトルとなり、水にまつわる話を幅広く紹介していくことで、多角的な視点から水環境や水への関心を促す冊子へと進化しました。私たちの暮らしの中には、飲み水などの上水、排水などの下水以外にも、水の循環を生み出す森林や川、水がつくる美しい景観、そして水が生み出す産業や文化など、さまざまな形で水が存在し、水の恩恵を受けています。近年では、自分たちが暮らす地域の水環境を見直し、次代へと継承すべき地域資産としての価値に気づくとともに、それらを保護していく活動も活発化しています。『水の話』では、そうした貴重な水資源や、日本全国に広がる多様な取り組みを知ってもらうことで、改めて水環境を守っていくことの重要性に気づききっかけをつくりたいと考えています。また世界に目を向ければ、安全な水やトイレを未だ利用できない国、気候変動が引き起こす水による大災害、世界的な水不足への不安など、まだまだ水環境の課題は多く、よりグローバルな情報を伝えていくことも必要となっていくことでしょう。

200号では、約50年という年月の中で「水環境」と『水の話』がどのように変化してきたのか、その変遷を紹介しています。『水の話』の軌跡をたどることで、未来へとつなぐべき大切な想いを再認識し、さらなる歩みを進めるための道標にしたいと考えています。



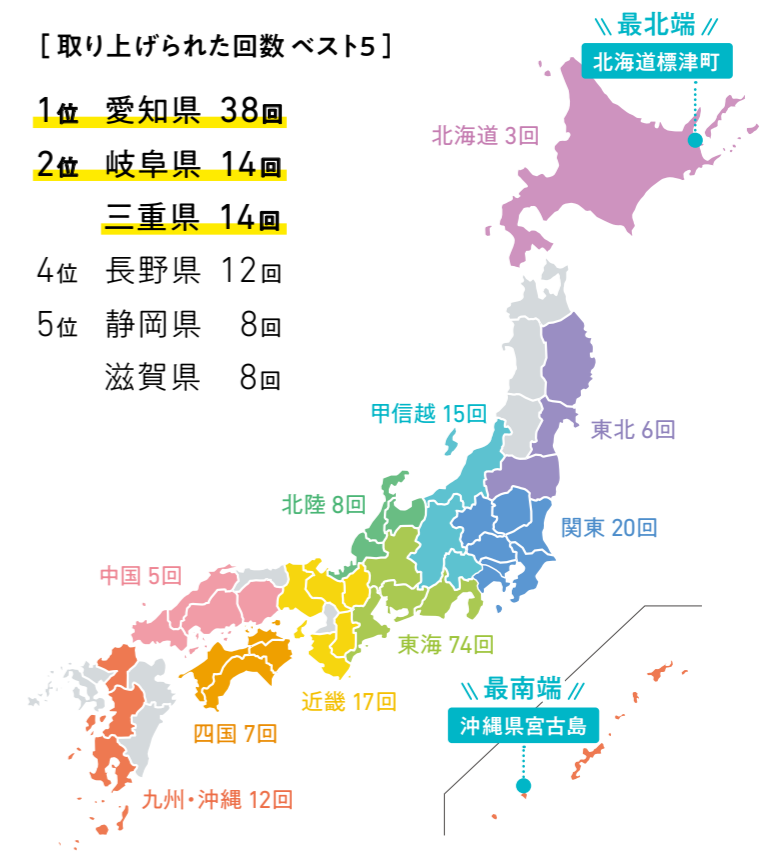
DATA of 水の話

『水の話』では、全国に足を運んで取材や撮影を行い、時代に適した切り口で水にまつわる話を紹介してきました。日本には「名水」と呼ばれる場所も多く、それらの地域には水と暮らしてきた歴史や産業、文化があるだけでなく、水への感謝が息づいていたように思います。日本全国に目を向けながら、さまざまな視点で人と水とのつながりを伝えていきます。

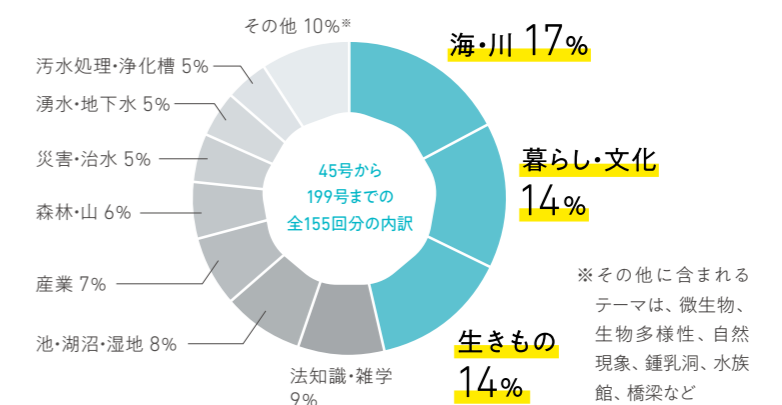
特集で取り上げた都道府県数 **38** 都道府県

【取り上げられた回数ベスト5】

- 1位 愛知県 38回
- 2位 岐阜県 14回
- 三重県 14回
- 4位 長野県 12回
- 5位 静岡県 8回
- 滋賀県 8回



● 特集で取り上げたテーマの割合



『水の話』と「水環境」の変遷 1 [1974(昭和49)年～1989(平成元年)年]

『水の話』の動き

「人の向上と「団結」の推進を目的に創刊



1960年代
『社報わたなべ』創刊

1975年
No.11より
頁数を12頁に拡大



「技術コーナー」や「お店拝見」など、製品にちなんだ情報が充実

1978年
No.20発行



高度経済成長による公害から水環境の改善へ

フジクリーンの前身会社である富士コンクリート工業は1961(昭和36)年2月に創業し、水洗トイレの普及にともない浄化槽事業を立ち上げたことで、水環境への関わりを深めていくことになりました。1974(昭和49)年に創刊した『フジクリーンニュース』は、それまでの社内報を社外に向けて発展させたものであり、販売会社の紹介、製品情報が中心でしたが、次第に読者の興味を惹きつける内容も盛り込まれて

いきました。一方で水環境は、昭和30年代の高度経済成長の影響による公害が社会問題となり、さまざまな分野で環境に関する法整備が強化されていきました。同時に浄化槽についても、1983(昭和58)年に浄化槽法が成立し、浄化槽の構造、設置、保守点検、清掃について規制が強化されることに。フジクリーンも1984(昭和59)年に日本初の小型合併浄化槽を発売するなど、大きな転換期を迎えました。

浄化槽の情報を発信する小型合併レポートがスタート



1989年
No.65より全頁オールカラーとなり、デザインもリニューアル

1987年
• 小型合併浄化槽K型、LX型が第14回環境賞優良賞を受賞



リニューアルにあたり各業界の方々からの巻頭言、「業界切り抜き帳」や「サロン」など親しみやすいコーナーも登場

1980年
No.27よりタイトルを『フジクリーン』に変更

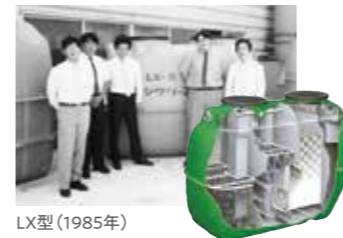


1986年
No.53より『FC NEWS』に変更



1986年
No.50発行

- 1980年
 - 小型合併浄化槽の研究、電磁ブロウの開発をスタート
- 1984年
 - 日本初の小型合併浄化槽を発売
- 1985年
 - 小型合併浄化槽LX型を開発・発売



LX型(1985年)

1974年5月
• 富士浄化装置工業(株)からフジクリーン工業(株)に社名変更



旧日本の社屋(1973年)

1970年
• 富士コンクリート工業(株)から富士浄化装置工業(株)に社名変更



東京営業所(1973年)

1974年
『フジクリーンニュース』創刊 B5 8頁

新社名「フジクリーン工業」に決定の記事を掲載



1960

1970

フジクリーンの動き

- 1961年2月
 - 富士コンクリート工業(株)を設立、創業
- 1969年5月
 - 愛知県にコンクリート製浄化槽専門工場を建設

浄化槽と環境問題

高度経済成長に伴い、公害問題や排水による水質汚染、排出ガスによる大気汚染が深刻化。

公害・自然保護に関する法制度の抜本的な整備・強化を実施。1980年頃までには顕著な成果をあげることができた。

閉鎖性水域の富栄養化や都市生活型の環境問題、地球環境問題が顕在化。

- ● 浄化槽に関する出来事
- ● 環境問題・国際的な動き
- 1914年 • 製陶研究所が水洗式便器を初出荷
- 1923年 • 関東大震災の発生をきっかけに汚水処理施設の未整備が問題となり、徐々に整備される
- 1921年 • 水槽便所取締規則が定められる
- 1950年 • 建築基準法が施行され、便所・汚物浄化槽の構造基準が定められる
- 1955年 • 日本住宅公団が発足。住宅団地などで共同浄化槽が設置されるようになる
- 1969年 • 建築基準法に基づき、単独浄化槽の構造基準が定められる

- 1970年 • 浄化槽の水質性能を評価する性能評定制度が公的機関で開始される
- 1971年 • 水質汚濁防止法が施行
• 環境庁(現:環境省)が設置される
→ 水質保全行政を環境保全の視点から一元的に担当
- 1972年 • 国連人間環境会議が開催
「かけがえのない地球(Only One Earth)」
- 1979年 • 第1回世界気候会議(ジュネーブ)で世界気候計画が採択

- 1980年 • 建築基準法に基づき、単独浄化槽の新構造基準が示される
- 1982年 • 国連環境計画(UNEP)管理理事会特別会合が開催
- 1984年 • 滋賀県で第1回世界湖沼環境会議が開催
• 国連が委員会設置「持続可能な開発(Sustainable Development)」の普及
- 1985年 • オゾン層保護のためのウィーン条約が採択
• 浄化槽法が全面施行され、浄化槽の構造、設置、保守点検、清掃について規制が強化

- 1987年 • 浄化槽設置整備事業(個人設置型)が創設される
- 1988年 • 建築基準法に基づき、小型浄化槽の構造基準が示される
- 1989年 • アルシュ・サミット(初の環境サミット)が開催

『水の話』と「水環境」の変遷 2 [1990(平成2)年～2023(令和5)年]



1991年
FC NEWSの特集を一冊の本にまとめた『水物語 もっと知りたい身のまわりの水』発行



1990

1994年
● 窒素除去型LR型を開発・発売
1998年
● 愛知県に水環境研究所を開設



1992年
No.76よりタイトルを『水の話』に変更

仕様もA4サイズ24頁に全面リニューアル。魅力的な写真をダイナミックに使用し、特集を充実させた、読み応え・見応えのあるPR誌へ。



No.72～94までをまとめた別冊版
1997年
水の話別冊『水物語 No.2』発行

子どもにもわかりやすい水と環境を特集



1998年
No.100を発行併せて別冊版も発行

2002年
● 日本初の窒素・リン除去型小型合併浄化槽CRX型を発売

2003年
● CRX型がウェスティック大賞の審査委員長特別賞を受賞

2004年
● CRX型が環境賞の第31回環境大臣賞と優秀賞を受賞



2005年
● CRX型が第31回優秀環境装置表彰 中小企業庁長官賞を受賞

2006年
● 第19回中日産業技術賞特別奨励賞を受賞
● メルボルンで開催された環境技術展へ出展

2008年
● 第10回日本水大賞 経済産業大臣賞受賞
● フジクリーン オーストラリアを設立



表紙でも全面に写真を使用するなど、魅力的な写真を大きく見せることでグラフィック誌要素を強めました。



1998年
No.101よりデザインリニューアル 今号よりホームページでの閲覧が可能に

2000

持続可能な社会の実現と地球規模の課題解決へ向けて

76号では大幅にリニューアルを施し、タイトルを『水の話』にするなど、現在に近い形に生まれ変わりました。社会的にも環境意識が高まる中で、『水の話』でも日本各地の水環境への取り組みを紹介していきました。2000(平成12)年には浄化槽法の改正によって単独浄化槽の新設が原則禁止になり、フジクリーンは2002(平成14)年に日本初の窒素・リン除去型小型合併浄化槽CRX型を発売。さまざまな賞を受

賞するなど大きな反響を受けました。世界では、1996(平成8)年に世界水会議が設立、翌年に第1回世界水フォーラムが開催され、地球規模で水問題に対処する動きが始まりました。いまだ海外では、セプティックタンク(腐敗槽)による排水処理も多く課題もある中で、持続可能な水の衛生管理の面からも日本の浄化槽技術に関心が高まっており、日本のスタンダードが世界のスタンダードになろうとしています。

2011年
No.150発行



2010

2010年
● コンパクト設計のCF型を発売

2011年
● CF型が 2011年愛知環境賞銀賞、第38回環境賞優良賞を受賞

2013年
● フジクリーンUSAを設立

2014年
● 経済産業省 新興市場開拓事業として、ベトナムハノイ市立幼稚園に浄化槽設置

2015年
● 省エネルギーを実現したCA型を発売
● アメリカの浄化槽関連展示会 WWETTに日本の浄化槽メーカーとして初出展
● フィリピンAPECで浄化槽の優位性についてプレゼンテーションを実施
● 「がんばる中小企業・小規模事業者300社」に選定

2017年
● ドイツAmmermann社を子会社化

2019年
● 「地域未来牽引企業」に選定



CA型(2015年)



2015年
No.168より誌面リニューアル(12頁)

2023年
7月200号を発行



2020

2020年
● 経済産業省「2020年版 グローバルニッチトップ企業100選」選定



2015フィリピンAPEC(2015年)

地球温暖化にともなう気候変動など、環境問題がグローバル化。

SDGsの達成とサステナブルな社会の実現を目指した取り組みが動き始める。

- 1991年 ● 浄化槽の構造基準が改正
→ 新設浄化槽の放流水BODは全て20mg/L以下に(公共下水道の終末処理施設と同等の性能)
- 1994年 ● 浄化槽市町村整備推進事業(市町村設置型)が創設される
- 1996年 ● 世界水会議(WWC)が設立
- 1997年 ● 地球温暖化防止京都議定書(COP3)にて京都議定書が採択
● 第1回世界水フォーラムが開催
- 1998年 ● 建築基準法改正により性能評価試験方法、認証システムの変更
- 1999年 ● 地球温暖化対策の推進に関する法律が施行

- 2000年 ● 循環型社会形成推進基本法施行
● 浄化槽法の改正により、単独浄化槽の新設が原則禁止に
● 閉鎖性水域の富栄養化問題が顕在化
- 2002年 ● 持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ)
- 2005年 ● 京都議定書が発効
● 浄化槽法2度目の改正
- 2006年 ● 単独浄化槽から合併浄化槽への転換に対する助成制度が創設され、公共用水域の保全が定められる

- 2010年 ● 低炭素社会対応型浄化槽整備推進事業が創設
- 2012年 ● 水質汚濁防止法改正の施行
- 2015年 ● 国連サミットにて持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals(SDGs))が採択
● 気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)にてパリ協定が採択
- 2016年 ● 低炭素社会対応型浄化槽整備推進事業が、環境配慮・防災まちづくり浄化整備推進事業へとリニューアル
- 2017年 ● 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金が創設
- 2019年 ● 3度目の浄化槽法改正により、合併浄化槽への転換が大きく前進

- [参考資料]
- 独立行政法人環境再生機構 [HP] [環境問題の歴史]
 - 環境省五十年史(資料編)
 - 環境省 水・土壌環境行政のあらし(資料編)
 - 高知県 [HP] [環境年表]
 - 日本複合材料学会誌(Vol.29 No.1-6 2003)

知っているようで知らない 水の話 発見FILE

「水の話」では、読者の興味を惹きつけるさまざまな企画を行ってきました。そこには、その時代の社会背景や空気感、編集担当者の個性などが集約されています。200号の中から見つけた、魅力ある企画の数々をご紹介します！

世界とつながる フジクリーン

環境問題のグローバル化を受けて、世界で活躍する様子を積極的に取り上げてきました。



都市の水風景 をクローズアップ！

77号からスタートした「水と都市のLANDSCAPE」では、街に潜む美しい水風景を紹介。水による街づくりの始まりを感じさせます。



水と生きる 人々を紹介！

著名人のエッセイに代わって始まったのが、水と深い関わりを持っている人々を取り上げる企画。魅力あふれる生き方に触れ、ワクワクしました。



浄化槽メーカーの視点で、 被災地をレポート

2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震など、仮設住宅における污水处理で浄化槽が活躍。重要なインフラである污水处理施設を担うフジクリーンだからこそその目線で、被災地をレポートしています。



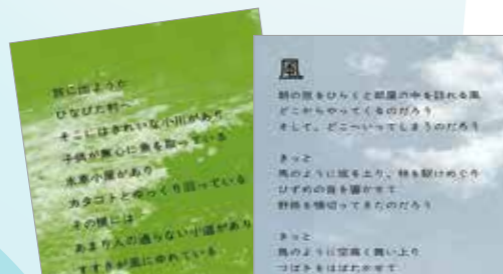
読者との うれしい交流も！

読者の皆さんからのお便りを紹介。感想だけでなく貴重なご意見など、ありがたい言葉の数々を受け止めました。



巻頭ポエムは 社員の力作！

グループ報的な役割が色濃かった前半期には、グループ社員のポエムが誌面を彩りました。



暮らしの雑学で ほっとひと息

読者に楽しんでもらおうと、仕事や暮らしに役立つちょっとした情報を掲載。どんな情報が喜ばれるかと思案した思いが感じられます。



ヨリミチインタビュー

『水の話』の過去・未来

時代ごとで発信すべきテーマや読者のニーズが変化する中で、常に趣向を凝らして制作を行ってきました。そこで、現在の編集室スタッフから、かつて制作を担当していた編集室OBに、当時の制作の様子や想いなどをお聞きしました。

現役・編集室スタッフから
OBに聞きました！

Q. 制作を進める中で大変だったことは？

A. 毎号の撮影でしょうか。季節感を出すために、例えば桜を載せたくても、制作のタイミングは1月頃なので間に合いません。そこで1年以上前からテーマを決め、事前に撮影するなど、いろいろ対策を立てていましたね。

Q. 特に印象に残っている号はありますか？

A. 100号の「ぼくたちの大切な水」の特集ですね。これは、子どもたちに水を理解してもらうことが未来につながると考え、企画しました。実は最初に別冊版をつくることになっていて、そこから「表紙を変えて100号にしよう」ということ。周囲からの反応も良く、会社の先輩から「100号を見て、この会社に勤められてうれしいと思えたよ」と言っただけ、昼食をごちそうしてもらったことを今でも覚えています。



Q. 制作でこだわっていたことは？

A. 冊子の全てを読んでもらうことは難しいので、読んだときに1つ2つ、心に刻んでもらえればいいと考えていました。だから、特集で大事にしたのは最初と最後。つまりカメラマンには扉の写真、ライターにはコピーの締め文章に力を入れてもらいました。例えば113号の「日本の庭」の特集では、「庭」という水とはかけ離れた難しいテーマでも、見事な文章で締めくれた思い出があります。

『水の話』200号にあたり

「水の話」は、創刊当初よりお客様とのコミュニケーションツールとして発行してきました。記事を楽しみにされているお客様に「水の話」をお届けし、環境や水の話からコミュニケーションを築いていく。そんな、お客様とのつながりを大切にする社風を継承する役目を、今後も担っていければと考えています。

水の話編集室



「水の話」編集室OB
渡辺産業株式会社
専務取締役 安田直人さん

「水の話」編集室
フジクリーン工業株式会社
総務部総務課 鈴木亜依 (左)
竹内美帆 (右)

読者の皆さんに、『水の話』の感想や 今後の要望などをお聞きました！

写真が大きく、孫に環境保護の話をするのに利用しています。

内容のクオリティが高く、毎号楽しみにしています。制作の裏の苦労を聞いてみたい。

フジクリーンが、どのように日本や世界の水質改善に貢献してきたかを知りたいです。

転勤族なので、地元や前の勤務地などが取り上げられていくと、つい見てしまう。

特に特集記事がお気に入りです。水に関わる歴史に興味津々です。

フジクリーンを知らなくても、環境に関心のある人に届くような仕組みがあるといいと思います。

皆様のご意見やご要望に耳を傾け、
今後も多くの方に喜ばれる冊子をつくっていきます。

Web **フジクリーンのWebサイト『水の話』ページをリニューアルしました!**

フジクリーンのWebサイトでは、『水の話』のバックナンバーの一部をご覧いただくことができます。今回のリニューアルでは、これまでの特集記事をアーカイブとして検索ができる機能を追加し、バージョンアップを図りました。日本地図から地域別に「水の話」を探したり、「川」「海」「湧水」「暮らし・文化」などのテーマごとの記事検索をすることも可能です。ぜひ一度、Webサイトでも『水の話』をお楽しみください。



イメージ画像

「水の話」Webサイトは
こちら

NEWS **代表取締役会長 渡辺嘉一が、令和5年春の叙勲において旭日単光章を受章**

令和5年春の叙勲が2023年4月29日付けで発令され、フジクリーンの代表取締役会長 渡辺嘉一が、中小企業振興功労として旭日単光章を受章しました。このような名誉ある章をいただいたのは、お取引先の皆様、浄化槽業界をはじめとする関係者の皆様のお陰

によるものであり、ここに謹んでご報告申し上げます。フジクリーンは、今後も国内外の水環境の改善・保全を目指し、いただいた栄誉に恥じないよう、一層努めて参ります。

働きがい向上紹介10 **社員のキャリア開発を促進する「ジョブトライアル制度」。**

フジクリーンでは、社内で別部署の業務を体験することができる「ジョブトライアル制度」を設け、2022年度に第1回目を実施しました。この制度によって、社員には次のようなメリットがあると考えています。

1. 今後のキャリアを具体的に考えられるようになる
2. 普段関わることのない業務に対する理解が深まる
3. 部署を横断した社員同士の交流ができる

実際に制度を利用した社員からは、「これまで経験したことのない業務を知る良い機会となった」「他の部署の人と交流を持つことができ楽しかった」など、参加してよかったという声が多くあがっています。フジクリーンでは今後も、ジョブトライアル制度の活用によって社員のキャリア開発、社内のコミュニケーションの促進に積極的に取り組んでいきます。



上：プロワ製造工場での品質や工程を学ぶ様子
下：オーストラリアの維持管理を学ぶ様子

TOPICS **下水道展 '23 札幌**

下水道展は、下水道事業の管理者である地方公共団体や一般の方々を対象に、下水道に関する幅広い分野の最新技術・機器等の展示や紹介をする国内最大規模の展示会で、下水道事業が抱える課題解決につながる情報が集まります。フジクリーンは「工場製作型極小規模処理施設FGU型」をご紹介。FGU型をはじめとするFRP製品は、腐食性ガスに対する耐食性や、施工コスト面、納期面に優れており、小規模な下水処理施設の普及促進技術として注目が集まっております。ブースでは、FRP製工場製作型極小規模処理施設が注目されはじめた時代背景を踏まえ、技術の概要を導入事例と交えて紹介します。ぜひお立ち寄りください。

2023年 8月1日(火)~4日(金)
10:00~17:00
(ただし初日開館10:30、最終日閉館16:00)

会場:札幌ドーム
主催:公益社団法人 日本下水道協会

入場料 無料

Webサイトはこちら

出展ブース
小間番号 S4-07



フジクリーンブースイメージ

もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

〈愛知県名古屋市〉
水辺とまちの
入口研究所



共同代表 秀島 栄三さん(左)
井村 美里さん(右)

「堀川」の新たな魅力を探り、 人と水辺がつながるきっかけをつくっていく。



堀川らしい風景を探すまち歩き



第1回の検定おさらい会は、
配信による問題解説を実施



◀ 堀川デザインコード
研究会で作成した冊子

庄内川を水源とし名古屋市のほぼ中心を南北に流れる「堀川」は、名古屋城開府とともに舟運物流のために開削された人工河川です。「水辺とまちの入口研究所」は、大学で土木工学や都市計画、河川整備等の研究を行う秀島さんと、前職で堀川やまちづくりの業務に携わっていた井村さんが共同代表となって2017(平成29)年に設立。水辺や水辺のあるまちの活性化と価値の向上を目指して、調査や実践的活動をスタートさせました。

活動の軸は、「知りたい」という気持ちを後押しし、楽しみながら水辺やまちに触れるきっかけを作り出すこと。2018(平成30)年には堀川の隠れた魅力を見つけようとメンバーを募り、「堀川デザインコード研究会」を実施しました。堀川らしい風景を探す川歩きを行い、例えば「橋のデザインの違い」や「なぜ石垣があるのか」など、各自が興味をもったことについて調査研究を行いました。その結果はリーフレットにまとめて、広く発信しています。

また多様なワークショップで積み重ねた知識を生かして、2021(令和3)年には堀川に関する深い知識を問う「堀川検定」を企画、実施。行政や堀川関係団体とともに問題を作成し、初級編、中級編、上級編の試験を用意しています。中でも上級編は単に問題を解くだけでなく、例えば「この古写真と同じ場所で撮影してきてください」など体験を組み込んだユニークな問題もあり、優秀者は堀川の魅力伝えるアンバサダーに任命しています。検定に合わせて多数イベントも開催しており、前年度の検定問題を振り返るおさらい会や船上ガイドによるなごや堀川クルーズなど、さまざまな形で知的好奇心を高めています。

こうした新しい視点での活動が認められ、2022(令和4)年に「中部の未来創造大賞」で優秀賞・中日新聞社賞を、公益財団法人河川財団による「優秀成果表彰」を受賞。今後は、新堀川などにも視野を広げながら、より多くの人たちにまちと川、水辺の魅力に気づいてもらう活動を進めていきます。

美しい水を守る フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

| | | | |
|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 札幌支店 (011)738-5075 | 宇都宮営業所 (028)625-4650 | 三重営業所 (059)213-5520 | 宮崎営業所 (0985)32-3064 |
| 東北支店 (022)212-3339 | 群馬営業所 (027)327-5611 | 和歌山営業所 (073)422-3634 | 鹿児島営業所 (099)257-3501 |
| 東京支店 (03)3288-4511 | 埼玉営業所 (048)660-5050 | 広島営業所 (082)843-3315 | 沖縄営業所 (098)862-9533 |
| 名古屋支店 (052)249-5100 | 千葉営業所 (043)206-5171 | 高松営業所 (087)869-8680 | |
| 大阪支店 (06)6396-6166 | 新潟営業所 (025)271-8668 | 松山営業所 (089)967-6123 | |
| 福岡支店 (092)441-0222 | 山梨営業所 (055)275-9300 | 高知営業所 (088)803-1520 | |
| 盛岡営業所 (019)604-2527 | 松本営業所 (0263)27-2080 | 佐賀営業所 (0952)31-9151 | |
| 郡山営業所 (024)937-0800 | 岐阜営業所 (058)271-1131 | 熊本営業所 (096)388-3571 | |
| 茨城営業所 (029)851-0031 | 静岡営業所 (054)286-4145 | 大分営業所 (097)558-5135 | |



発行 2023年7月1日
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室